

デンマークの子育て事情

人が資源、人々が平等でいられる高度な民主主義社会

お話し：澤渡夏代ブラントさん

レポート：藤山敦子

1. デンマークってどんな国？

高レベルの福祉国家で国民一人当たりの所得が世界で上位、女性の社会参加とそれを支える社会の仕組みが最も進んでいる国だと言われています。所得格差が世界一少なく、国民は高い税金を負担しながら世界で最も幸せだと感じています。それは、個人が成長している所以で、小さい時から自己決定ができる教育を行い、自分で目標を掲げ、自分の目的に到達したとき幸せを感じるからです。

そして人が資源、人々が平等でいられる高度な民主主義社会です。

*子育てに優しい国

子どもが生まれると同じ時期に生まれた近所の子たち 5 人ほどで看護師がマザーズクラブを作ります。誕生日パーティーやホームパーティーは、初めて子どもを産んだお母さんにとって、安心して話せる場所になります。訪問看護師は 1 年に最高 7 回家庭を訪問し、赤ちゃんの成長も見守ってくれます。それは、それぞれの家庭の雰囲気がよくわかるということにも役立っています。

2. デンマーク社会が求めている人間像

- ① 自分でものごとを考え、判断できる自立した人間

例えば買い物の場面でも、幼い頃から 2 つのうちの一つを選んだり、保育園でのお昼寝の時自分でぬいぐるみを取りに来たり、おむつの台に乗ったりなど自分で考え自分ですするという



ことを大切にします。

- ② 自己決定・自己管理

個の尊重・・・個を尊重し自己決定を促す⇒自分で自分の人生を選ぶ⇒生きる喜び・仕事への喜び

- ③ 連帯の尊重・・・結束する重要性、社会の中の一人

デンマークは競争や管理から生まれるものはない、みんな違ってみんないいという考え方です。

3. 子どもの居場所

- ① 0～2 歳 56,1%

乳児保育園・保育ママ ～52 週の育児休暇があるので 0～1 歳の多くの子どもはママやパパの元で暮らしていますが 1 歳以上の子ども達のほとんどが保育施設を利用しています。

- ② 3～5 歳 94%保育施設～移民の子は母親に職業が無いので家にいることが多いのですが、言葉の教育が出来ないので学校の勉強についていけないと

いう悪循環を起こしています。

- ③ 6～9歳 87% 学童保育
～多くは学校の校舎内にあります。
- ④ 10～13歳 12,6% 青少年クラブ
- ⑤ 14～18歳 青年クラブ～ゴーカート
やモトクロスなど多彩で自治体が下
校後の生活を見る義務があります。

4. 子どもとどう向き合うか

小さい時から自分で選び決めるということ
を繰り返します。

例えば菓子を買う時でも、「これとこれ、
どっちにする？」という聞き方をし、親が食
べてもいいと思った物の中から自分で決め
ます。「あなたは どう思う？」「あなたが決め
なさい」と色々な選択肢を与えながら対話を
し、やりたくなるようなモチベーションを引
き出したり見守ったりしながら自分で決定
できるように促していきます。

「私たちはこどもとよく話します」とデン
マークの保育士が言いました。「子どもに」
という上から目線ですが、「こどもと」と
対等な関係を大切にしています。

5. デンマークの保育計画/カリキュラム

2004年8月に成立した乳児、幼児保育
施設の教育カリキュラム法は独立した法律
ではなく社会サービス法内に乳児、幼児保育
法として追加されたものです。これに基づい
てどの保育園も全体で同じことをしていま
す。保育士がどうすればいいかではなく、子
ども自身が学べることを誰とどのようにし
ていくのか、保育士が出来ることを述べてい
ます。

- ① 子どもの総体的人格形成(個人的能力)
パーソンリー
- ② 社会的能力の発達
- ③ 言葉の発達
- ④ 体と運動

- ⑤ 自然と自然現象を知る
- ⑥ 文化的表現法及び価値を学ぶ



日本の保育園に見学に行ったとき、保育士が
指揮をとって子どもを整列させて歓迎の言
葉を述べてくれました。メダルをくれたので
すが、形も模様も同じメダルでした。デンマ
ークでは個性を大切に、それぞれに思い
思いの自分の作品を作っています。

木登りを見ても、上にいるがいいとか誰
よりも早く登れたとかではなく、昨日より今
日、自分の一歩、明日はもう一歩、もう少し
上を目指して自分自身のステップアップを
図っていくというものです。

6. 園庭はブナの森

森の幼稚園は1950年代にアパート住まい
のお母さんたちが、コンクリートの中ではな
く緑豊かな中で遊ばせたいという動機で、交
代で近くの森に出かけたのがきっかけです。

親に代わって保育士を雇うことを市に申
請し自治体が認可しました。森の幼稚園には
園舎はありませんがブナがあります。

保育のカリキュラムや方針、保育士のやり
方は一律で、どの園も同じカリキュラムに沿
った教育をしています。

いろんな形があり、毎日森へ行く園と一週
間に一度行く園もあります。バスで森に入る

保育園、森へ行こうグループを作っている園もあります。

年長児のみであったり 3 歳以上児が交代で行ったりと様々です。森の中で子どもたちは自分で遊びを考え、試し、経験しながらいろいろなことを遊びの中で学んで身に付けていきます。先生は子ども達が安心して遊べるように、危険がないように見守ります。森の幼稚園は毎年違う子どもの数に園舎を増築しないで済むという利点もあります。

じっと見守る・・・子どもが自分たちで木を運んできて、水たまりの上に橋を作ってその上を渡る

近くに友達がない、必ず大人の傍で、という約束の下、ナイフを使い木を切る



7. デンマークの教育のコンセンサス

<国家繁栄の鍵>

- ① 保育園で育った社会性や言語能力などを教育現場で受け止めてもらうというようにデンマークは大きな人育てのビジョン、教育システムがあります。
- ② 学校は 0 学年から 10 年生まであり、幼児期、子どもは子どもらしく自由に過ごしていた子どもたちが椅子に座ったり話を聞いたりなど学校教育の準備期間として設けられたのが 0 学年です。
- ③ 5~6 年生になると自分の進むべき道がわかってきてその方向で教育を受けます。多くの方は 9 年生までですが、まだ熟達していないと思ったら 10 年生として任意で引き続き教育を受けることが出来ます。
- ④ 教育は生きるためにあり教育と職業は連携しています。義務教育後も多様な選択肢があり、職業学校、技術学校、商業学校、巧妙学校、普通校があり、
- ⑤ 普通校を卒業すると大学入試資格が取れます。いろいろな人がいていろいろな職業があり、サラリーマンばかりではなくプロ、職業人を育てるのも大きな役割です。
- ⑥ 人間として豊かになってほしい、学びは内からくる動機が無くてはならないという全人教育です。自分の人生に向かって職業を選んで全うするので、結婚、出産などの大きなイベントでも退職する理由にはならず、女性も自立しています。個を尊重し自己決定を促すことが自分で自分の人生を選ぶことにつながり、それが生きる喜び、仕事への喜びにつながっていきます。
- ⑦ 1 年生の新しいクラスで・・・一人ひとりが主役になりクラスメートがその子のいいところを言い合い、友達が言ってくれたことを言葉にして壁に張り出します。「みんないいことを思っているんだよ」
- ⑧ 感想文の代わりに絵で思いを表現した 0 学年の子がスペルを間違えて字を書いた・・・間違いを訂正するので

はなく、今は字を書きたい時期でスペルを教える時ではない、解るときがあるので、その時に学校教育の中で教えればよいという考え方です。

- ⑧ お話の読み聞かせをよくしていて、絵本を楽しむ時間を大切にしています。家庭では寝る前に両親が、学校では昼食の時に先生がお話を読み、子ども達は熱心に聞きます。
- ⑨ 3年生の英語の授業の場面・・・飛行機を調べて英語で発表する授業では、どういう発表をするかは子どもたちに任されていて先生は教えるのではなく支援しています。数学など問題を解くときも答えを教えるのではなく、どうしてそうなるかなどを考えさせる教育です。

8. 自立を促すシステム

18歳になると成人として親に頼らず自立できるように、適材適所の教育を公費で受けたり、学びながら給料をもらったりすることができるシステムがあります。

- ① 学生援助金（実家の子は 2860kr, 独立している子 5753kr）

学生は学生援助金（返済義務はない）をもらいその中から税金、家賃、電話料など支払い生活します。みんなが社会の一員としての義務感がありみんなが納税者です。

- ② 見習い給料制度

例えば調理師では中学校の後青年中等教育を受け、学校でのスクーリングが3分の1でレストランや食堂での実習が3分の2で4年かかります。勉強しながら実習生は実習生の給料がもらえます。



9. 職場と家庭のバランス

円満な家庭生活はよい仕事につながると考え、家庭で楽しく過ごす、ゆったり過ごすなど、家族と過ごす時間を大切にしています。

愛されれば、その子は人を愛する大人になり、社会に愛されれば、その人は社会の大事な人材となります。

